



## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月12日

上場会社名 株式会社ウチヤマホールディングス 上場取引所 東  
コード番号 6059 URL <https://www.uchiyama-gr.jp>  
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 山本武博  
問合せ先責任者（役職名） 経営企画部部长（氏名） 川上哲緒（TEL）093-551-0002  
半期報告書提出予定日 2024年11月13日 配当支払開始予定日 2024年12月3日  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

### 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	14,505	1.6	149	△46.8	295	△44.5	323	50.4
2024年3月期中間期	14,276	7.7	281	—	531	—	214	—

（注）包括利益 2025年3月期中間期 314百万円（48.1%） 2024年3月期中間期 212百万円（—%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	16.67	—
2024年3月期中間期	11.10	—

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	30,704	12,591	41.0
2024年3月期	31,123	12,367	39.7

（参考）自己資本 2025年3月期中間期 12,589百万円 2024年3月期 12,365百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
2025年3月期	—	5.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	5.00	10.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,116	4.4	1,134	92.5	1,161	△2.4	433	102.6	22.38

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料11ページ「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期中間期	21,618,800株	2024年3月期	21,618,800株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	2,233,258株	2024年3月期	2,250,917株
③ 期中平均株式数(中間期)	2025年3月期中間期	19,374,445株	2024年3月期中間期	19,345,525株

(注) 期末自己株式数には、「株式給付信託(J-E S O P)」制度の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式(2025年3月期中間期72,150株、2024年3月期72,150株)が含まれております。また、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(2025年3月期中間期72,150株、2024年3月期中間期72,150株)。

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- 当社では、個人投資家の皆様向けに適宜、事業・業績に関する説明会を開催しています。開催の予定等については、当社ホームページをご確認ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 中間連結貸借対照表 .....	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	11
(会計方針の変更) .....	11
(セグメント情報) .....	12
(重要な後発事象) .....	13

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間における我が国の経済は、社会・経済活動の正常化に伴い、インバウンドの増加や賃上げ率の上昇などにより、緩やかな景気回復の動きがみられました。一方、円安による原材料価格の高騰、国際情勢の不安定化など、世界経済は依然として先行き不透明な状態が続いております。

このような環境の中で当社グループが運営する介護事業におきまして、2024年度は医療、介護、障がい福祉サービス等報酬の改定も同時に行われる、いわゆる「トリプル改定」の年となります。なお、介護保険制度改定では、①地域包括ケアシステムの深化・推進②自立支援・重度化防止に向けた対応③良質なサービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場づくり④制度の安定性・持続可能性の確保、の4つの視点に基づいた内容が定められております。また、介護報酬の改定率についてはプラス1.59%、内訳としては介護職員の処遇改善分がプラス0.98%、介護職員以外の処遇改善分がプラス0.61%となりました。

今後の介護事業をとりまく状況として、65歳以上の高齢者数は2025年には約3,657万人、2042年には約3,878万人となることが予測されており、IT化による介護負担の軽減が期待されております。

しかし、デジタル化の進展だけでは人間性を低下させる可能性があるためテクノロジーを活用し、利用者様にとって最適なサービスを提供するためのデータ集積、業務の改善や効率化を進めることで職員の負担を軽減し、利用者様、職員にとってより良質な時間創出を図れる運営が必要となります。その上で、多様化する高齢者ニーズへの対応スキル向上、科学的根拠に基づいたデータ基点でのケアの最適化、利用者様の生活の質(QOL)向上、介護現場における働きやすい職場環境づくりの強化に取り組んでおります。その為、当社グループが展開する介護事業におきましては、より専門性をもつ従業員を育成する社内認定資格制度において、あらたに利用者様の生活の質の向上を目的として、排泄ケアを中心とした多職種連携でのチームケアの実践に取り組める人材育成を目的とした「排泄ケア専門士」、認知症ケアにおける基本的な知識や理念を理解し、多職種連携による効果的な認知症ケアの実践を目指す「認知症ケアリーダー」および介護ロボット等のテクノロジーを活用し、業務の改善や効率化を進めることで職員の負担を軽減し、利用者様、職員にとってより良質な時間創出を図れる人材育成を目的とした「ケアクリエイター」3種の認定資格を開始しております。

また、カラオケ事業および飲食事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響は収まったものの、コロナ前の生活習慣が元に戻ることはなく、完全な回復と言えるまでの状況には至っておりません。その他、原材料をはじめ光熱費や物流費、さらに人手不足に伴う人件費の増加など、さまざまなコストの上昇が見込まれ、想定よりも回復に遅れが見られております。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は14,505,042千円(前年同期比1.6%増)、営業利益は149,562千円(同46.8%減)、経常利益は295,063千円(同44.5%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は323,004千円(同50.4%増)となりました。

各セグメントの業績は以下のとおりであります。

#### a. 介護事業

介護事業におきましては、介護付ホーム1カ所を開設しました。また、住宅型有料老人ホーム1カ所、デイサービスセンターを1事業所閉鎖、放課後等デイサービス2事業所を近隣事業所と統合しており、当中間連結会計期間末時点での営業拠点は117カ所196事業所となりました。

当中間連結会計期間での既存施設の平均入居率は92.9%(前年同期既存平均入居率91.0%)と安定的に推移しました。

それらの結果、当中間連結会計期間の売上高は11,785,940千円(前年同期比5.0%増)、セグメント利益は779,748千円(同4.1%増)となりました。

#### b. カラオケ事業

カラオケ事業におきましては、新規開店は行っておらず退店を7店舗行ったことから、当中間連結会計期間末時点での店舗数は69店舗となりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は2,236,420千円(前年同期比9.6%減)、セグメント損失は224,593千円(前年同期はセグメント損失156,484千円)となりました。

c. 飲食事業

飲食事業におきましては、新規開店及び退店を行っておらず、当中間連結会計期間末時点での店舗数は10店舗となりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は306,836千円(前年同期比3.5%減)、セグメント利益は7,340千円(同29.1%減)となりました。

d. 不動産事業

不動産事業におきましては、販売用不動産の売買及び賃貸不動産の仲介業務等を中心に、今後も、当該事業においては情報収集の強化と積極的な展開を検討して参ります。この結果、当中間連結会計期間の売上高は145,243千円(前年同期比34.9%減)、セグメント利益は53,707千円(同28.0%減)となりました。

e. その他

その他におきましては、有料職業紹介事業において外部への特定技能外国人材の紹介および登録支援機関として支援業務の契約数を順調に伸ばしております。また、グループ内の特定技能外国人材の支援業務を内製化したことで引き続き、コスト削減に取り組んでおります。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は30,601千円(前年同期比14.1%減)、セグメント利益は17,751千円(同12.9%減)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べ418,819千円減少し、30,704,340千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末より1,872,713千円増加し、16,869,499千円となりました。主な要因は、現金及び預金、有価証券が増加したこと及び流動資産(その他)が減少したことによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末より2,291,533千円減少し、13,834,840千円となりました。主な要因は、建物及び構築物、土地が減少したことによるものです。

当中間連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比べ642,738千円減少し、18,113,212千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末より68,363千円減少し、9,195,106千円となりました。主な要因は、1年内返済予定の長期借入金、未払法人税等、流動負債(その他)が減少したこと及び短期借入金が増加したことによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末より574,374千円減少し、8,918,105千円となりました。主な要因は、長期借入金が増加したことによるものです。

当中間連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末より223,918千円増加し、12,591,128千円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する中間純利益の計上による利益剰余金の増加と配当金の支払による減少によるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べて1,742,191千円増加し、11,835,892千円となりました。

各キャッシュ・フローの状況については下記のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、51,741千円(前年同期は1,242,271千円の収入)となりました。収入の主な内訳は税金等調整前中間純利益が695,165千円、減価償却費の計上が306,200千円、その他の流動資産の減少額が182,021千円であり、支出の主な内訳は固定資産売却益の計上が423,600千円、法人税等の支払額が565,493千円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、2,059,253千円(前年同期は42,210千円の支出)となりました。収入の主な内訳は有形固定資産の売却による収入が3,184,605千円、定期預金の払戻による収入が345,781千円であり、支出の主な内訳は有形固定資産の取得による支出が867,362千円、投資有価証券の取得による支出が603,160千円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、369,536千円(前年同期は147,399千円の収入)となりました。支出の主な内訳は長期借入金の返済による支出が4,403,528千円、配当金の支払額が97,059千円であり、収入の主な内訳は短期借入金の増加額が330,000千円、長期借入れによる収入が3,822,000千円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の連結業績予想につきましては、2024年5月10日に公表いたしました業績予想数値から変更はありません。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,758,237	12,461,744
売掛金	2,604,306	2,667,302
有価証券	200,000	500,000
商品	51,642	51,519
販売用不動産	182,611	205,278
貯蔵品	333	343
その他	1,203,342	987,227
貸倒引当金	△3,688	△3,916
流動資産合計	14,996,786	16,869,499
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,288,419	5,522,210
土地	3,234,504	2,801,015
その他(純額)	248,859	241,344
有形固定資産合計	10,771,783	8,564,571
無形固定資産	33,209	31,198
投資その他の資産		
その他	5,342,331	5,259,986
貸倒引当金	△20,949	△20,915
投資その他の資産合計	5,321,381	5,239,071
固定資産合計	16,126,374	13,834,840
資産合計	31,123,160	30,704,340

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	694,935	662,290
短期借入金	2,855,000	3,185,000
1年内返済予定の長期借入金	2,439,142	2,311,357
未払法人税等	575,823	442,810
契約負債	142,295	187,874
賞与引当金	335,978	319,151
株主優待引当金	26,897	4,383
資産除去債務	22,566	59,763
その他	2,170,832	2,022,475
流動負債合計	9,263,470	9,195,106
固定負債		
長期借入金	8,191,554	7,737,811
資産除去債務	556,308	507,908
株式給付引当金	2,488	2,488
その他	742,129	669,897
固定負債合計	9,492,480	8,918,105
負債合計	18,755,950	18,113,212
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,222,935	2,222,935
資本剰余金	2,658,355	2,655,530
利益剰余金	8,599,472	8,825,276
自己株式	△1,145,658	△1,136,670
株主資本合計	12,335,104	12,567,071
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	42,902	41,518
為替換算調整勘定	△12,345	△19,010
その他の包括利益累計額合計	30,557	22,508
新株予約権	1,548	1,548
純資産合計	12,367,209	12,591,128
負債純資産合計	31,123,160	30,704,340



## (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

## 中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	14,276,967	14,505,042
売上原価	13,250,926	13,560,761
売上総利益	1,026,040	944,281
販売費及び一般管理費		
賞与引当金繰入額	7,019	7,296
租税公課	241,828	293,053
その他	496,068	494,368
販売費及び一般管理費合計	744,916	794,718
営業利益	281,123	149,562
営業外収益		
受取利息	8,285	10,066
受取配当金	9,635	15,745
補助金収入	118,700	110,465
その他	178,368	87,266
営業外収益合計	314,989	223,544
営業外費用		
支払利息	30,249	47,968
保険解約損	—	19,563
その他	33,893	10,511
営業外費用合計	64,143	78,043
経常利益	531,970	295,063
特別利益		
固定資産売却益	75,024	423,600
特別利益合計	75,024	423,600
特別損失		
固定資産除却損	214	1,777
減損損失	99,595	21,721
特別損失合計	99,810	23,499
税金等調整前中間純利益	507,184	695,165
法人税、住民税及び事業税	330,223	433,014
法人税等調整額	△37,737	△60,853
法人税等合計	292,485	372,160
中間純利益	214,698	323,004
親会社株主に帰属する中間純利益	214,698	323,004

## 中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	214,698	323,004
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,316	△1,383
為替換算調整勘定	△8,351	△6,665
その他の包括利益合計	△2,034	△8,048
中間包括利益	212,663	314,955
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	212,663	314,955
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	507,184	695,165
減価償却費	316,876	306,200
減損損失	99,595	21,721
貸倒引当金の増減額(△は減少)	419	△56
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,827	△16,881
契約負債の増減額(△は減少)	△17,617	45,579
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△17,117	△22,513
固定資産売却損益(△は益)	△75,024	△423,600
固定資産除却損	214	1,777
受取利息及び受取配当金	△17,921	△25,812
支払利息	30,249	47,968
売上債権の増減額(△は増加)	△63,597	△62,407
棚卸資産の増減額(△は増加)	59,541	△22,553
未払消費税等の増減額(△は減少)	△18,523	84,846
仕入債務の増減額(△は減少)	23,975	△32,644
その他の流動資産の増減額(△は増加)	57,970	182,021
その他の流動負債の増減額(△は減少)	298,698	△226,315
その他	△17,712	55,432
小計	1,170,039	607,928
利息及び配当金の受取額	17,469	26,187
利息の支払額	△30,249	△50,209
法人税等の支払額	△109,645	△565,493
法人税等の還付額	194,657	33,328
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,242,271	51,741

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△227,593	△867,362
有形固定資産の売却による収入	103,293	3,184,605
無形固定資産の取得による支出	—	△2,095
無形固定資産の売却による収入	—	400
投資有価証券の取得による支出	—	△603,160
投資有価証券の償還による収入	—	200,000
資産除去債務の履行による支出	△8,419	△33,431
定期預金の預入による支出	△142,244	△305,776
定期預金の払戻による収入	130,243	345,781
敷金及び保証金の差入による支出	△3,421	△47,571
敷金及び保証金の回収による収入	61,432	56,961
貸付けによる支出	△3,340	△2,235
貸付金の回収による収入	24,545	22,792
保険積立金の積立による支出	△29,166	△14,439
保険積立金の解約による収入	52,470	116,224
その他	△10	8,558
投資活動によるキャッシュ・フロー	△42,210	2,059,253
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	413,200	330,000
長期借入れによる収入	1,200,000	3,822,000
長期借入金の返済による支出	△1,318,256	△4,403,528
社債の償還による支出	△30,000	—
割賦債務の返済による支出	△20,741	△20,947
配当金の支払額	△96,802	△97,059
財務活動によるキャッシュ・フロー	147,399	△369,536
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,017	732
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,348,476	1,742,191
現金及び現金同等物の期首残高	9,054,541	10,093,700
現金及び現金同等物の中間期末残高	10,403,017	11,835,892

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による中間連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当中間連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前中間連結会計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の中間連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前中間連結会計期間の中間連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報)

## 【セグメント情報】

## I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	中間連結 損益計算書 計上額 (注)3
	介護事業	カラオケ 事業	飲食事業	不動産事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	11,226,137	2,474,383	317,832	222,969	14,241,323	35,643	14,276,967	—	14,276,967
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	15	91	20,181	1,628	21,917	25,045	46,962	△ 46,962	—
計	11,226,153	2,474,474	338,013	224,598	14,263,240	60,688	14,323,929	△ 46,962	14,276,967
セグメント利益 又は損失(△)	749,065	△ 156,484	10,350	74,632	677,564	20,387	697,951	△ 416,827	281,123

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、職業訓練事業及び職業紹介事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△416,827千円の内容は、セグメント間取引消去263,164千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△679,992千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当中間連結会計期間において、「カラオケ事業」セグメントでは96,103千円、「飲食事業」セグメントでは2,845千円、「不動産事業」セグメントでは647千円の減損損失を計上しております。

## II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	中間連結 損益計算書 計上額 (注)3
	介護事業	カラオケ 事業	飲食事業	不動産事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	11,785,940	2,236,420	306,836	145,243	14,474,440	30,601	14,505,042	—	14,505,042
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	69	201	20,385	2,368	23,026	27,043	50,069	△ 50,069	—
計	11,786,010	2,236,622	327,222	147,612	14,497,466	57,645	14,555,112	△ 50,069	14,505,042
セグメント利益 又は損失(△)	779,748	△ 224,593	7,340	53,707	616,202	17,751	633,953	△ 484,391	149,562

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、職業訓練事業及び職業紹介事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△484,391千円の内容は、セグメント間取引消去264,710千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△749,101千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当中間連結会計期間において、「カラオケ事業」セグメントでは21,721千円の減損損失を計上しております。

## (重要な後発事象)

## (連結子会社の合併)

当社は、2024年9月19日開催の取締役会において、当社の連結子会社である株式会社さわやか倶楽部を存続会社、当社の連結子会社である株式会社ボナーを消滅会社とする吸収合併を行うことを決議し、2024年10月1日付で合併契約を締結しました。

## (1) 本合併の目的

当社グループにおける経営資源の有効活用を目的に、グループの組織体制見直しを行い、組織運営のさらなる効率化を図るために行うものであります。

## (2) 本合併の要旨

## ①本合併の日程

取締役会決議日(当社)	2024年9月19日
合併契約締結日(各社)	2024年10月1日
株主総会決議日(各社)	2024年12月25日(予定)
合併効力発生日	2025年1月1日(予定)

## ②本合併の方式

株式会社さわやか倶楽部を存続会社とする吸収合併方式であり、株式会社ボナーは解散いたします。

## ③本合併に係る割当ての内容

当社の完全子会社間の合併であるため、本合併による株式割当その他の対価の交付は行いません。

## ④本合併に伴う新株予約権および新株予約権付社債に関する取扱い

該当事項はありません。

## (3) 本合併の当事会社の概要

	存続会社	消滅会社
①名称	株式会社さわやか倶楽部	株式会社ボナー
②所在地	北九州市小倉北区熊本二丁目10番10号	北九州市小倉北区熊本二丁目10番10号
③代表者の役職・氏名	代表取締役 山本 武博	代表取締役 歌野 繁美
④事業内容	介護施設の運営、障がい者(児)支援サービス等	カラオケ店舗の運営、飲食店舗の運営等
⑤資本金	100,000千円	10,000千円
⑥設立年月日	2004年12月	1994年6月
⑦発行済株式数	401,600株(2024年3月31日時点)	169,600株(2024年3月31日時点)
⑧決算期	3月31日	3月31日
⑨大株主及び持株比率	株式会社ウチヤマホールディングス 100%(2024年3月31日時点)	株式会社ウチヤマホールディングス 100%(2024年3月31日時点)

## (4) 本合併後の状況

存続会社である株式会社さわやか倶楽部の名称、所在地、代表者の役職・氏名、資本金及び決算期に変更はありません。

(5) 今後の見通し

本合併による連結業績に与える影響は軽微であります。

(6) 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2019年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理を実施する予定であります。